

出血性大腸炎になった柴犬が1度の処方で元気になったケース

鈴木 一美

日本ホメオパシーセンター立川錦町

JPHMA 認定ホメオパス No.1089

ZEN メソッド修得認定 No.0525

JPHF 認定インナーチャイルドセラピスト

- ① 要約・・・柴犬は出血性の下痢から始まり、血尿まで出るようになってしまい食欲不振で弱り、一日中寝てばかりの状態。何度か病院へ連れて行き、投薬による処置を受けたが、一向に回復しなかった事から、今回ホメオパシーでの処方を飼い主より依頼される。
- ② 主訴・・・出血性大腸炎（診断時の病名）だが、血便、血尿、食欲不振、衰弱に対処を希望
- ③ 経緯・タイムライン・・・2023/07/10頃から血便に続いて血尿も始まる
→7/12,19,24と通院に通う。その際に出血性大腸炎と診断され、下痢止め、ステロイド、抗生剤が処方される。投薬するものの一向に回復せず。
→依頼を受けて処方し、7/21～レメディーを摂取開始する。
- ④ 手法とレメディー選択
<TBRにて>
 - 1：443 腎臓
 - 2：458 血尿
 - 3：1604 潰瘍-出血する
 - 4：421 排便および大便-下痢
 - 5：1012 炎症-粘膜の
 - 6：301 肝臓
 - 7：304 直腸
 - 8：569：呼吸-あえぐ（息を切らす）

| 順位・Rxs | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①Merc. | 1 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 1 | 2 |
| ②Puls. | 1 | 4 | 3 | 4 | 3 | 2 | 2 | 2 | 4 |
| ③Bell. | 3 | 1 | 1 | 2 | 4 | 2 | 3 | 3 | 2 |

<処方>

随時：サポートφ Pet13+Merc.1M+Carc.LM2+Bell.LM3+Onkokin6C+
Mizonog-w.30C

- ・ 肝臓が弱り解毒ができなくなってきた事から、腎臓や腸に負担がかかっているのではと考え Pet13 を母体にし、肝臓の強化。TBR でトップの Merc.と炎症で出血し辛いのではと考え Bell.を選択。弱っている臓器が多い為 Carc., 腸内を整える為に Onkokin., 動物を元気にしてくれる水のレメディー Mizonog-w.をコンビネーションした。

結果・・・2週間も経たないうちにほぼ全ての症状が改善され、元気になった。→7/28には出血は全て止まり、便の状態も改善。食欲が戻り調子が良いと報告がある。

→7/29 経過観察に訪れると、以前は寝ているか、虚ろな様子でよろよろと歩いていたのが、家の中でおもちゃを使い遊びまわるほど活発に戻っていた。息切れのような症状も軽くなっているように見受けられた。

食べ物にも執着が出ていて安心した。

(更に後日、飼い主からの話では性欲も戻ってきているとの報告があった)

- ⑤ 考察・・・飼い主はコロナワクチンを3回接種した後、脳梗塞になり緊急手術→入院となってしまった。当日中にこの柴犬は無事に保護されたが、その後親戚の家で半年間生活する事になった。環境の変化や飼い主に会えない等のストレスも弱っていくにあたり、あったのだろうと考える。水のレメディーが魂にまで作用し癒しとなり、飼い主ともう1度一緒に過ごしていける体をレメディーで取り戻し、御古菌が腸を助け、免疫力を上げてくれたのだと感じたケースだった。